

# 平成24年度 北海道園芸研究談話会研究発表会プログラム

平成24年12月3日(月) 於 北大学術交流会館

	[第1会議室]	[小講堂]
9:00	◆座長 黒島学 氏(花・野菜技セ)	◆座長 成松靖 氏(十勝農試技術普及室)
	果樹-1 ハイブッシュブルーベリーの定植後の樹体生育に及ぼす育苗法の影響 ○池永充伸1・稲川裕2(1. 中央農試、2. 道総研農研本部)	野菜-15 ユウガオ花粉を利用した種なしスイカの作出 ○杉山慶太・嘉見大助・室崇人(北農研)
9:15	花き-1 アリウム「札幌3号」の特性について ○篠田浩一・村田奈芳(北農研)	野菜-16 短節間カボチャの導入と普及(第2報)生産技術体系の作成 ○高田和明・片山雅子・宮町良治(石狩農改)
9:30	花き-2 アリウム「ブルーパフェーム」の切り花貯蔵と品質保持 ○篠田浩一・村田奈芳(北農研)	野菜-17 カボチャの果皮温度が日焼け症状に及ぼす影響 ○八木亮治・福川英司(花・野菜技セ)
9:45	◆座長 村田奈芳 氏(北農研)	◆座長 菅原章人 氏(道総研農研本部)
	花き-3 デルフィニウム切り花の前処理液吸収量におよぼすプレハーベスト要因の影響 黒島学(花・野菜技セ)	野菜-18 メロンの有機栽培における研究と実践 ○高橋英明・梅田由可奈・富樫亘・中内亨則・田邊翔太・菅野美咲・杉山浩奈(名寄産業高)
10:00	花き-4 スターチス・シヌアータの茎葉黄化に対する採花後遭遇積算温度の影響 ○鈴木亮子1・小林孝夫2・川名淳二3(1.花・野菜技セ、2.空知農改北空知支所、3.北空知広域連)	野菜-19 スイートコーンの灌水処理による収量への影響～雨害湿潤害を想定して ○前畑久美子1・川岸康司 2・小田義信2・高橋恒久3(1.北海道農済、2.花・野菜技セ、3.花・野菜技セ技術普及室)
10:15	花き-5 カジイチゴのコガネムシ類に関する調査研究(第1報)マメコガネ用誘引剤における雌雄別発生消長 ○池田信・内田真人・渡部幾子(石狩農改石狩北部)	野菜-20 ブロッコリー耐暑性品種の導入と普及 ○宮町良治1・斉藤浩1・栗原栄樹2(1.石狩農改、2.住化農業資材(株))
10:30	◆座長 平井剛 氏(十勝農試)	◆座長 鳥越昌隆 氏(原環セ)
	野菜-1 ナガイモ栽培畦の培土による陥没軽減・収量・外観品質に関する調査研究 ○山田徳洋・氏家俊典(網走農改網走)	野菜-21 タマネギ有機栽培育苗培土の固化剤散布方法の検討(第3報)低濃度多回数散布の機械移植実証及び現地における効果確認 ○福川英司1・杉山裕2・柳田大介2・大久保進一1・田中静幸1(1.花・野菜技セ、2.北見農試)
10:45	野菜-2 ナガイモの植付け作業の機械化による改善効果の検証 ○千葉大基1・八谷満1・福澤加津良2(1. 農研機構生研セ、2. フクザワ・オーダー農機)	野菜-22 タマネギ長球育成系統の球形特性 ○杉山裕・柳田大介(北見農試)
11:00	野菜-3 夏秋どりイチゴ果実の氷温貯蔵に伴う品質の変化 ○島岡亮介・鈴木絵里奈・成定希・志村華子・鈴木卓(北大院農)	野菜-23 播種・定植時期がタマネギの内部品質に及ぼす影響 ○柳田大介1・平井慎介2・杉山裕1(1.北見農試、2.(株)ゼンショー)
11:15	◆座長 福川英司 氏(花・野菜技セ)	◆座長 鈴木卓 氏(北大院農)
	野菜-4 省エネ化と高品質化に向けたニンニクの収穫後処理技術の検討 ○八谷満1・山崎博子2・庭田栄子3(1.農研機構生研セ、2.農研機構東北農研、3.青森県野菜研究所)	野菜-24 タマネギ高畦移植栽培に関する調査研究(第2報)高畦が生育・収量・品質に及ぼす影響 ○田中理恵1・柳田大介2・中村克俊3・龍瀧剛3(1.網走農改、2.北見農試、3.JAとことろ)
11:30	野菜-5 上川北部地域における施設園芸の暑熱対策資材に関する二、三の知見 ○佐藤導謙1・真鍋照彦2・馬場晶子2・松浦準3(1.佐藤技術士事務所、2.上川農改名寄、3.日高農改日高西部)	野菜-25 淡色黒ボク土におけるリン酸局所施用が直播タマネギの生育・収量に及ぼす影響 ○臼木一英・竹中真・室崇人・辻博之(北農研)
11:45	野菜-6 盛夏期における雪冷熱と地中熱を活用した伏せ込み栽培ベッドの温度制御 ○山川梨奈1・熊野貴宏1・横田富男2・荒木肇3(1.北大院環境、2. 建成産業(株)、3.北大北方生物圏セ)	野菜-26 大きさの異なるタマネギ球のメタボローム解析 ○木村祐太・岡崎圭毅・室崇人(北農研)
12:00～12:30 総会(小講堂)		

	[第1会議室]	[小講堂]
13:15	◆座長 篠田浩一 氏(北農研) その他-1 スカシユリの花被片と葯におけるCHS遺伝子の発現 Lai Yunsong・O山岸真澄(北大院農)	◆座長 柳田大介 氏(北見農試) 野菜-27 タマネギ紅色根腐病菌の病原性について O児玉不二雄1・前川健二郎2・本村洋一2・森尚久2(1(社)北海道植防、2.ホクレン農総研)
13:30	その他-2 アスパラガスのルチン合成に関わる遺伝子発現の解析 O安原里美1・志村華子1・前田智雄2・鈴木卓1(1.北大院農、2.弘大農)	野菜-28 タマネギ紅色根腐病がタマネギの生育および球肥大に及ぼす影響 O前川健二郎1・本村洋一1・森尚久1・阿部晴夫2・児玉不二雄3(1.ホクレン農総研、2.ふらの農協、3.(社)北海道植防)
13:45	その他-3 エゾワサビ葉抽出物の抗大腸菌活性 O阿部圭馬1・木戸重範1・嘉見大助2・杉山慶太2・志村華子1・鈴木卓1(1.北大院農、2.北農研)	野菜-29 第6回食用ネギ類国際シンポジウムの概況について O田中静幸1、室崇人2、前川健二郎3(1:花・野菜技セ、2:北農研、3:ホクレン農総研)
14:00	その他-4 アロニアおよびハスカップ果実色素がラット脂質代謝に及ぼす影響 O高橋あずさ1・清水久恵2・白崎はるの2・福田絵里2・坂口博英3・知地英征2・鈴木卓1(1.北大院農、2.藤女子大食物栄養、3.(株)日本新薬)	◆座長 大道雅之 氏(拓大) 野菜-30 札幌市におけるアスパラガス伏せ込み用2年生株の充実過程 O二階堂華那1・鈴木卓2・市川伸次3・河合孝雄3・荒木肇3(1.北大院環境、2.北大院農、3.北大北方生物圏セ)
14:15	◆座長 杉山慶太 氏(北農研) 野菜-7 LED補光がトマトの収量・内部品質に与える影響について O古館卓朗1・中野勝2・高田昌広3.(1.後志農改北後志、2.ニューヤングファーマーズ、3.後志農改)	野菜-31 美幌町における11月出荷を目指した1年半養成根株によるグリーンアスパラガス伏せ込み促成栽培 O午来博1・地子立2・園田高広3・荒木肇4(1.美幌みらい農セ、2.北大院環境、3.酪農学園大、4.北大北方生物圏セ)
14:30	野菜-8 トマトに対する開花期の低温処理が果実へ及ぼす影響 O高橋恒久1・下田祐規子2(1.花・野菜技セ技術普及室、2.空知農改中空知)	野菜-32 伏せ込み栽培時のアスパラガス根のフルクトオリゴ糖組成とその代謝関連酵素活性の変動 O松橋拓哉1・上野敬司1・園田高広2・元木悟3・松永邦則4・塩見徳夫1・小野寺秀一1(1.酪農大院食品栄養科学、2.酪農大院酪農学、3.明治大農学部、4.バイオニアエコサイエンス)
14:45	野菜-9 夏秋どりトマトにおける秋期裂果軽減対策の効果 高橋恒久(花・野菜技セ技術普及室)	◆座長 園田高広 氏(酪農大) 野菜-33 アスパラガスのハウス立茎栽培における収穫期間が収量へ及ぼす影響(第2報)収穫4年日以降の収量 O菅原章人1・宗形信也2・荒木和哉3(1.道総研農研本部、2.道南
15:00	野菜-10 トマト3段密植栽培における湛液型簡易養液栽培の試み O大久保進一・福川英司(花・野菜技セ)	野菜-34 ハウス立茎アスパラガス摘心位置による収量に対する影響について O小澤徹1・黒澤健治1・山口和彦1・田中良典1・石澤裕史2(1.檜山農改、2.留萌農改南留萌支所)
15:15	◆座長 高橋恒久 氏(花・野菜技セ技術普及室) 野菜-11 ポリポットを用いた高精度トマト栽培の安定生産へ向けた取り組み O地子立1・小松勉2・安岡眞二3(1.上川農試、2.中央農試、3.十勝農試)	◆座長 川岸康司 氏(花・野菜技セ) 野菜-35 ビタミンCおよび凍結保存処理を用いたアスパラガスのウイルスフリー化法の検討 O松尾典之・志村華子・鈴木卓(北大院農)
15:30	野菜-12 少量培地養液栽培におけるカット・スライス用途向けトマトの果実特性 O地子立1(上川農試)	野菜-36 アスパラガスにおけるウイルス診断法の改良と感染調査 O志村華子・平田智恵子・許揚昕・増田税(北大院農)
15:45	野菜-13 トマトのヘアリーベッチ由来窒素の吸収と肥培管理 O杉原雄一1・荒木肇2・上野秀人3(1.北大院環境、2.北大北方生物圏セ、3.愛媛大農)	野菜-37 アスパラガス促成栽培がニンジンのキタネグサレセンチュウの密度と品質に及ぼす影響 O園田高広1・畠山幸樹1・午来博2・荒木肇3(1.酪農学園大、2.美幌みらい農セ、3.北大北方生物圏セ)
16:00	野菜-14 余市町での調理用トマトの栽培体験と調理実践 O荒木肇1・伊藤喜三男2・百々瀬いづみ3・細山俊樹4(1.北大北方生物圏セ、2.さっぽろ農学校、3.天使大、4.余市町農林水産課)	野菜-38 北海道におけるアスパラガス茎枯病の発生調査 O橋下愛1・園田高広2(1.酪農学園大酪農学研究科、2.酪農学園大循環農学)

注1)プログラム編成上、申込時の分野分類と異なる場合がありますがご了承願います。

注2)O印は演者を示します。発表時間は、1課題あたり15分(発表12分、質疑応答3分)です。一鈴10分、二鈴12分、三鈴15分。16:15終了予定。